

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピースマイル 津田		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性を丁寧に把握し、リハビリ専門職による質の高い個別支援を安定して提供できている点は大きな強みであり、今後も専門性のさらなる深化が期待される	こどもが安心して集中できるよう、一人一人に合わせた環境調整・声掛け・工夫をして構造化など、日々意識して行い、落ち着いた過ごせる空間づくりに取り組んでいる	保護者がこどもの支援内容や学習の進み具合をより把握しやすくするよう、共有方法やフィードバックの形式を見直し、分かりやすい情報提供をさらに充実させていく
2	送迎時や日々のやり取りを通して保護者とのコミュニケーションを大切に、家庭と事業所が一体となって支援を進められている点は強みであり、今後も継続的な連携強化が期待される	送迎時や日々のやり取りを通して保護者とのコミュニケーションを大切に、こどもの様子や支援の意図を丁寧に共有することで家庭と連携した支援を意識的に行っている	事業所内での療育が中心となっている現状を踏まえ、こどもに負担のない範囲で地域交流や外部機関との連携機会を少しずつ広げ、社会参加の幅を広げられる環境づくりを進めていく
3	学習スペースと運動スペースの分離や整理整頓された環境づくりなど、こどもが安心して集中できる空間を整えている点が評価されており、今後も環境面の工夫がさらに充実することが期待される	こどもの特性に合わせた専門的なリハビリ支援を提供するため、スタッフ間での情報共有や支援内容の振り返りをこまめに行い、活動が固定化しないようプログラムを工夫している	専門的なリハビリ支援の質を維持しながら活動の幅を広げるため、スタッフ間の情報共有や役割分担の仕組みをさらに整え、支援体制の強化とプログラムの多様化を図っていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者がこどもの支援内容や学習の進み具合をより把握しやすくするよう、共有方法やフィードバックの形式を見直し、分かりやすい情報提供をさらに充実させていく	保護者がこどもの支援内容や学習の進み具合をより把握しやすくするよう、共有方法やフィードバックの形式を見直し、分かりやすい情報提供をさらに充実させていく	保護者がこどもの支援内容や学習の進み具合をより理解しやすくするよう、情報共有の方法やフィードバックの形式を見直し、分かりやすい伝え方をさらに工夫していく必要がある
2	事業所内での療育が中心となっている現状を踏まえ、こどもに負担のない範囲で地域交流や外部機関との連携機会を少しずつ広げ、社会参加の幅を広げられる環境づくりを進めていく	事業所内での療育が中心となっている現状を踏まえ、こどもに負担のない範囲で地域交流や外部機関との連携機会を少しずつ広げ、社会参加の幅を広げられる環境づくりを進めていく	事業所内での療育が中心となっているため、こどもに負担のない範囲で地域交流や外部機関との連携機会を少しずつ広げ、社会参加の幅を広げられる環境づくりを進めていくことが求められている
3	専門的なリハビリ支援の質を維持しながら活動の幅を広げるため、スタッフ間の情報共有や役割分担の仕組みをさらに整え、支援体制の強化とプログラムの多様化を図っていく	専門的なリハビリ支援の質を維持しながら活動の幅を広げるため、スタッフ間の情報共有や役割分担の仕組みをさらに整え、支援体制の強化とプログラムの多様化を図っていく	専門的なリハビリ支援の質を維持しながら活動の幅を広げるため、スタッフ間の情報共有や役割分担の仕組みをさらに整え、支援体制の強化とプログラムの多様化を図っていく必要がある